

(別紙様式)

平成25年度魅力ある学校づくり調査研究事業ブロック協議会資料

都道府県・政令指定都市教育委員会名〔 鹿児島県 〕

1 拠点校及び連携校

区分	学校名	学級数	児童生徒数
拠点校(中学校)	東串良町立東串良中学校	7(1)	182
連携校 (拠点校中学校区 内の小学校)	東串良町立池之原小学校	9(1)	241
	東串良町立柏原小学校	7(1)	100
		()	
		()	

※学級数の()には、特別支援学級数を内数として記入

※学級数及び児童生徒数は平成25年5月1日現在で記入

2 意識調査(アンケート共通項目)※集計結果を%で示す。(%)は小数第2位を四捨五入

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	ア 学校が楽しい				イ みんなで何かをするのは楽しい				ウ 授業に主体的に取り組んでいる				エ 授業がよくわかる			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	前年①	176	63.0	24.3	8.1	4.6	69.9	21.5	4.6	4.0	21.5	54.6	19.2	4.7	23.7	58.4	13.9	4.0
		前年②	176	58.1	32.9	6.6	2.4	70.1	20.4	6.0	3.6	30.5	44.9	21.0	3.6	17.4	57.5	19.2	6.0
		本年①	182	60.1	27.7	9.8	2.3	63.0	28.9	5.8	2.3	24.9	49.1	23.7	2.3	26.6	57.8	13.9	1.7
	3	中2①	54	45.3	32.1	11.3	11.3	58.5	28.3	7.5	5.7	9.6	57.7	25.0	7.7	11.3	66.0	17.0	5.7
		中2②	54	46.9	38.8	12.2	2.0	55.1	24.5	16.3	4.1	8.2	59.2	28.6	4.1	10.2	61.2	22.4	6.1
		中3①	54	43.8	37.5	14.6	4.2	41.7	47.9	8.3	2.1	6.3	58.3	35.4	0.0	8.3	70.8	20.8	0.0
	2	中1①	70	70.6	26.5	2.9	0.0	80.9	14.7	0.0	4.4	27.9	54.4	16.2	1.5	36.8	50.0	10.3	2.9
		中1②	70	57.6	36.4	3.0	3.0	72.7	21.2	0.0	6.1	34.8	40.9	21.2	3.0	16.7	56.1	21.2	6.1
		中2①	70	59.4	26.1	11.6	2.9	68.1	24.6	4.3	2.9	27.5	46.4	21.7	4.3	21.7	55.1	18.8	4.3
	1	小6①	59	72.9	22.0	3.4	1.7	62.7	23.7	10.2	3.4	42.4	42.4	11.8	3.4	42.4	44.1	11.8	1.7
小6②		59	83.1	10.2	5.1	1.7	78.0	13.6	6.8	1.7	67.8	22.0	8.5	1.7	49.2	32.2	15.3	3.4	
中1①		58	75.0	21.4	3.6	0.0	75.0	17.9	5.4	1.8	37.5	44.6	16.1	1.8	48.2	50.0	1.8	0.0	
小学校	高学年計	前年①	118	65.5	25.0	8.6	0.9	69.8	20.7	6.9	2.6	42.2	39.7	14.7	3.4	36.2	43.1	16.4	4.3
		前年②	118	74.1	12.9	9.5	3.4	75.9	13.8	7.8	2.6	53.4	27.6	16.4	2.6	41.7	36.5	15.7	6.6
		本年①	104	64.1	24.3	6.8	4.9	65.0	22.3	10.7	1.9	39.8	31.1	23.3	5.8	40.8	42.7	12.6	3.9
	6	小5①	59	57.9	28.1	14.0	0.0	77.2	17.5	3.5	1.8	42.1	36.8	17.6	3.5	29.8	42.1	21.1	7.0
		小5②	59	64.9	15.8	4.0	5.3	73.7	14.0	8.8	3.5	38.6	33.3	24.6	3.5	33.9	41.1	16.1	8.9
		小6①	58	71.9	21.1	3.5	3.5	70.2	21.1	8.8	0.0	36.8	31.6	28.1	3.5	42.1	43.9	12.3	1.8
	5	小5①	46	54.3	28.3	10.9	6.5	58.7	23.9	13.0	4.3	43.5	30.4	17.4	8.7	39.1	41.3	13.0	3.5

学校種	学年等	児童生徒数(人)	オ 叩かれたり、けられたり、強く押されたりした				カ 暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられた				キ 叩いたり、けったり、強く押したりした				ク 暴力ではないが、いじわるをしたり、イヤな思いをさせた			
			1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	182	80.9	13.3	2.3	3.5	72.8	17.3	4.6	5.2	80.3	10.4	4.6	4.6	73.4	19.1	2.9	4.6
	3年	54	91.7	6.3	0.0	2.1	83.3	12.5	0.0	4.2	85.4	12.5	2.1	0.0	79.2	18.8	2.1	0.0

	2年	70	65.2	24.6	4.3	5.8	58.0	27.5	10.1	4.3	71.0	15.9	4.3	8.7	59.4	29.0	2.9	8.7
	1年	58	91.1	5.4	1.8	1.8	82.1	8.9	1.8	7.1	87.5	1.8	7.1	3.6	85.7	7.1	3.6	3.6
小学校	高学年計	104	64.1	21.4	2.9	11.7	63.1	16.5	5.8	14.6	58.3	26.2	5.8	9.7	62.1	24.3	8.7	4.9
	6年	58	64.9	22.8	3.5	8.8	64.9	19.3	7.0	8.8	49.1	29.8	10.5	10.5	52.6	29.8	15.8	1.8
	5年	46	63.0	19.6	2.2	15.2	60.9	13.0	4.3	21.7	69.6	21.7	0.0	8.7	73.9	17.4	0.0	8.7

※小学校は連携校の合計

※実施時期の第1回(①)は5月ごろ、第2回(②)は12月ごろに実施

※「オ」～「ク」の項目の調査は平成25年度から実施

3 課題・目標・取組

課題	交友関係や学業不振，家庭環境等に起因する学校不適応や不登校が多い。 中学1年時の学校不適応が多く見られる。
目標	集団の中で他者との関わり合いを深め，豊かな人間関係を築き，学ぶ喜びや自己有用感をもつことができる児童生徒を育成する。
取組	小・中，小・小合同の教育活動及び家庭・地域と連携した支援体制づくりを推進し，分かる授業の実践や豊かな人間関係づくりに努める。

4 意識調査結果の分析

(1) 好ましいと思われる事項

小・中共通	① 「みんなで何かをするのは楽しい」の項目で，小6・中1・中2の7割が「当てはまる」と回答している。 ② 「授業がよくわかる」の項目で，「当てはまる」の回答が，平成24年度第1回調査との比較で，中学校で2.9ポイント，小学校で4.6ポイント増加した。
中学校	① 「学校が楽しい」の項目で，1年生の75%が「当てはまる」と回答し「当てはまらない」と答えた生徒がいない。 ② 「授業がよくわかる」の項目で，1年生の98%が肯定的に回答し，「当てはまらない」と答えた生徒がいない。
小学校	① 「学校が楽しい」の項目で，6年生の72%が「当てはまる」と回答し，2回続けて割合が増えている。(前回調査比7ポイント増。) ② 「授業がよくわかる」の項目で，6年生の「当てはまる」の回答が2回続けて増えている。(前回調査比8.2ポイント増。)

(2) 好ましくないと思われる事項

小・中共通	① 「授業に主体的に取り組んでいる」の項目で，「当てはまる」の回答が，中学校で5.6ポイント，小学校で13.6ポイント減少した。また，小5を除き4割未満と全体に低い。 ② いじめに関する項目で，「あった」，「よくあった」と回答した子どもがいる。
中学校	① 「みんなで何かをするのは楽しい」の項目で，「当てはまる」と回答した生徒が全学年で減っている。(中3-13.4ポイント，中2-4.6ポイント，中1-3.0ポイント。) ② 「授業に主体的に取り組んでいる」，「授業がよくわかる」の項目で，「当てはまる」と回答した3年生の割合が1割未満と非常に低い。2年生でも3割未満と低い。 ③ 1年生と3年生が，すべての質問項目で「当てはまる」の回答が前回調査比マイナスになった。 ④ いじめに関する4項目で，2年生の1割以上の生徒が「あった」，「よくあった」と回答している。

小学校	<p>① 「授業に主体的に取り組んでいる」、「授業がよくわかる」の項目で、5・6年生ともに「当てはまる」と回答した児童の割合が5割未満と低い。</p> <p>② 「みんなで何かをするのは楽しい」の項目で、「当てはまる」と回答した児童の割合が2回続けて減っている。(前回調査比-3.5ポイント。)</p> <p>③ いじめに関するほとんどの項目で、5・6年生ともに、いじめの被害・加害が「まったくなかった」と答えた児童の割合が7割に届いていない。</p>
-----	--

5 取組事項

小・中共通	<p>① 管下の小・中学校の管理職や生徒指導主任、町教育委員会の指導主事、PTA、民生委員等で組織する調査研究委員会を設置し、不登校の未然防止につながる小・中連携及び小・小連携の効果的な取組を調査研究する。</p> <p>② 『教室こそ児童生徒の居場所である』との思いを共有し、毎時間の授業の充実を図り、「わかる授業」の徹底に努める。学習の約束やできたときの賞賛、ICTの効果的な活用等を共通実践することで、学ぶ意欲を向上させ、確かな学力を身に付けさせる。</p> <p>③ 学年や学級の実態に応じて、自己有用感を高める特別活動やいじめ問題について考える授業及び道徳の時間等を充実させ、豊かな人間関係や社会性・道徳実践力等を培う。</p> <p>④ 鹿児島県教育庁大隅教育事務所が提唱する地区共通実践事項「大隅終末ベーシック」や、町共通実践事項「9年間を見通した目指す児童生徒像(学習面)」、「授業の心得5か条」、「東串良の子育て」等による授業実践を通して、児童生徒の学力の向上を図る。</p> <p>⑤ 小学5・6年の全児童及び中学校の全生徒を対象に、事業に係る意識調査を5月と12月に実施する。調査研究委員会で調査結果を集計・分析し、実態に応じた個別支援計画を作成することで、不登校の未然防止を図る。</p> <p>⑥ 児童生徒や教職員が学校間で交流する機会を意図的に設け、円滑な小・中接続を図る。相互授業参観・出前授業・部活動体験・小・中合同ボランティア活動・模擬授業など。</p> <p>⑦ PTA活動や社会教育活動の充実による地域ぐるみの支援体制づくりを推進することで、児童生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>⑧ 事業に係るリーフレットを作成し、管下の全児童生徒の家庭や地域の関係機関等に配布することで、家庭や地域との連携を図った取組を進めていく。</p> <p>⑨ 学校だよりや学校のホームページ(ブログ)等で事業の取組状況や成果を紹介することで、家庭や地域住民の学校教育への関心を高める。また、町の広報誌や町のホームページ等にも関連記事の掲載を依頼する。</p> <p>⑩ 事業での取組が不登校の未然防止につながっているか等について、その評価方法を調査研究委員会で検討する。そこで作成した調査項目を各学校の学校評価に組み入れ、保護者や教職員等の意見を集約し、取組の改善に生かす。</p> <p>⑪ 個々の取組の意義やねらいの周知に努め、全教職員への趣旨の徹底を図る。</p> <p>⑫ 町の社会教育行事への積極的な連携の在り方について検討し、児童生徒の参加を増やす。</p>
中学校	<p>① 学校行事や生徒会活動、部活動等において、一人一人が生き生きと活躍できる場を保障することで、自己有用感をもたせる。</p> <p>② 学年生徒会をより機能させ、学年集会等でよりよい集団づくりのためのエクササイズや社会的なスキルのトレーニングを活用した仲間づくりを実践する。</p> <p>③ 「学習のしおり」を改訂し、年度初めや学期初めの学習オリエンテーションで活用し、基本的な学習の躰の徹底を図る。</p> <p>④ 不登校生徒の学校復帰を目指して、個別支援チームによる組織的な取組の充実を図る。</p> <p>⑤ 鹿児島県教育委員会が作成した、基礎学力定着問題集・解説集「鹿児島ベーシック」を効果的に活用することで、基礎学力の向上を図る。</p>

小学校	<p>① 小・小連携を進める中で、「わかる授業」や共通した指導法等を検討し、中学校進学に当たっての学習の均斉を図る。</p> <p>② 地域の教育力を生かした学校支援を一層充実させるために、校区コミュニティ活動と学校との連携の在り方を探る。</p> <p>③ 鹿児島県教育委員会が作成した、基礎学力定着問題集・解説集「鹿児島チャレンジ」を効果的に活用することで、基礎学力の向上を図る。</p>
-----	--

6 取組内容

(1) 事業実施計画書に記載した月別実施内容

月	小学校で行う主な内容	実施状況	中学校で行う主な内容	実施状況
4月	保護者への広報・周知(全小, 全学年) いじめ問題について考える授業(全小, 全学年)	○ ○	学校生活オリエンテーション(全学年) 生徒指導事例研修会(新1年対象) 第1回小・中連絡協議会【小中合同】 第1回連絡協議会(東京都) 校内研修における教員向けオリエンテーション 連携校・保護者への広報・周知(全学年) いじめ問題について考える授業(全学年)	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
5月	第1回意識調査(全小, 5・6年) 町教育委員会訪問(池之原小学校)	○ ◇	第1回相互授業参観及び町内全教員向けオリエンテーション(柏原小学校会場)【小中合同】 第2回小・中連絡協議会【小中合同】 第1回意識調査(全学年)	○ ○ ○
6月	町教育委員会訪問(柏原小学校)	◇	第1回調査研究委員会【小中合同】	○
7月	学校評価(全小)	○	町教育委員会訪問 PTA教育講演会(全学年) 学校評価 東串良町「ルービン『少年の主張』」発表大会【小中合同】 小・中合同地域生徒会活動(ボランティア)【小中合同】 東串良町小・中学生夏合宿「サマーアドベンチャー」 【小中合同】	◇ ○ ○ ○ ○ △
8月	啓発資料作成 研修視察	○ △	第3回小・中連絡協議会【小中合同】 第2回調査研究委員会【小中合同】 部活動体験【小中合同】 啓発資料作成 研修視察 「未来を拓く鹿児島の教育シンポジウム」における取組成果の発表【小中合同】	○ △ ○ ○ △ ◇
9月	いじめ問題について考える授業(全小, 全学年)		いじめ問題について考える授業(全学年) 小学校運動会への役員派遣(全学年)	
10月	陸上記録会(全小)		町民運動会 出前授業(両小学校) 第4回小・中連絡協議会【小中合同】 西日本ブロック協議会(香川県)	
11月			小・中合同教育講演会【小中合同】 出前授業(両小学校) 小・中音楽会【小中合同】	

		第2回教育相談（全学年） 第5回小・中連絡協議会【小中合同】 第2回相互授業参観（東串良中学校会場）【小中合同】
1 2月	第2回意識調査（全小，5・6年） 学校評価（全小）	第2回意識調査（全学年） 学校評価 第3回調査研究委員会【小中合同】 第6回小・中連絡協議会【小中合同】 東串良町小・中学生冬合宿「冬季スケート体験」（霧島）【小中合同】 小中合同地域生徒会活動（ボランティア）【小中合同】
1月	啓発資料作成	啓発資料作成 中学校入学体験活動及び入学説明会【小中合同】 第3回相互授業参観（池之原小学校会場）【小中合同】
2月		第2回連絡協議会（東京） 第4回調査研究委員会【小中合同】 第7回小・中連絡協議会【小中合同】 第3回教育相談（全学年） 東串良町小学校英語活動発表会・中学校英語暗唱大会【小中合同】
3月		出前授業（両小学校） 小・中連携部会（小6中1担任）【小中合同】

（2）8月末までに実施した具体的な取組

【小・中共通】

②④「わかる授業」による「居場所づくり」

各小・中学校の代表者による学習指導法研究会を年間5回開催し、基礎学力の向上に向けた共通の取組について検討する。また「9年間を見通した目指す児童生徒像」や「授業の心得5か条」，「賞賛による指導」等を掲げ3校で共通実践している。中学校では「学習のしおり」を改訂し，年度初めに授業の受け方やノートの書き方，予習・復習の仕方等を確認し，学び方の定着を図った。（図1）

② 豊かな人間関係づくりの推進

各学校の実態に応じて，豊かな人間関係づくりの取組を計画的に進めている。池之原小学校では，級友の良いところを探し合って月ごとに表彰している。柏原小学校では，縦割り班によるふれあい活動や清掃活動を定期的に行っている。中学校では，1学期末PTAに併せて親子教育講演会を実施した。講演に先立ち，講師との打ち合わせを綿密に行い，一人一人の価値を見直すことの大切さを深く扱ってもらえるよう依頼した。（図2）

<講演会後の生徒の感想より>

- 講演でのお話を聞いて，必要のない人はいないと改めて気づくことができました。どんな人でも必ず大切にされていると言われましたが，まさにその通りだと思いました。命の重みは，みんな同じなんだと感じました。僕もこれからは，命の水を人のために使うことができる人になりたいと思いました。

⑥⑩ 第1回相互授業参観（柏原小学校会場）【5月2日】

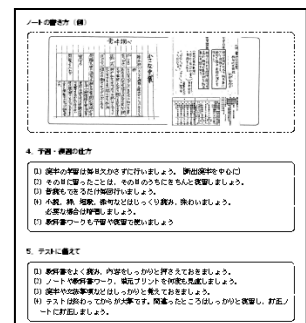


図1 学習の手引き



図2 親子教育講演会

全小・中学校を輪番で会場とし、2小1中の全教員が相互に授業参観を行う（年3回）。当日の意見交換会の中で、本事業の事業説明を行った。（図3）

<教員の感想より>

○ 小・小連携や小・中連携がスムーズにできるように、各校でしつけや学び方などをしっかりと身に付けさせたい。

⑥ 部活動体験【8月5日・6日（夏季休業中）】

小学6年生に部活動の雰囲気や楽しさを味わわせ、中学校進学への期待や憧れをもたせるために、部活動体験を行った。2日間で7つの部活動に延べ39名が参加した。（図4）

<参加した児童の感想より>

○ 中学生の人たちはとても声が出ていて、足もあまり止まっていなくてよく動いていてとてもすごいと思いました。あと、とても礼儀正しくて、私たちは手本にしたいと思いました。

⑥ 小中合同地域生徒会活動【7月下旬（夏休み中）】

地域でのボランティア活動を中学生と小学5・6年生が合同で行った。集落ごとに小学校や公園、神社、公民館等の清掃を行った。校区コミュニティ協議会や子ども会にも協力を依頼したことで、地域住民の参加も多数得られた。（図5）

⑫ 地域行事との連携

中学校の部活動では、人間形成に重点を置くことを生徒や保護者と申し合わせて活動している。部活動単位で地域行事に積極的に参加し、地域住民との交流を図っている。8月の夏祭りでは、野球部全員で神輿担ぎを行った。（図6）

<野球部員の感想より>

○ 予想していたより御神輿が重かったけど、野球部みんなで力を合わせて担げたのでよかったです。地域の方々ともふれ合うことができとても楽しかったです。

〔中学校〕

③ 集団づくりのエクササイズを通した仲間づくりの推進

生徒どうしの「絆づくり」の取組として、学年集会で集団づくりのエクササイズを月1回実施している。4月は「ジャンケン自己紹介」、5月は「いいところ探し」等、時期や学年の実態に応じて学年生徒会で内容を選んでいる。（図7）

<生徒の感想より（1年生・4月）>

○ 今日の活動を通してたくさんの人たちと楽しく話をすることができてよかったです。これからも積極的に周りの友達に話しかけていきたい。

〔小学校〕

② 本町には、地域における教育の場として校区コミュニティ協議会が両小学校区単位で組織されている。稲作体験や登山、グランドゴルフなど、児童・保護者・校区民が一体となった活動を展開している。本事業の趣旨への賛同を得て、中学生にも積極的な参加を呼びかけ、地域における小・中連携を進めている。（図8）



図3 相互授業参観



図4 部活動体験



図5 地域生徒会活動



図6 野球部員による
神輿担ぎ



図7 学年集会での
エクササイズ



図8 稲刈り体験活動

7 8月末までの取組状況と課題（第1回意識調査結果を踏まえた内容を含む）

（1）順調に進んでいる事項

小・中共通	<p>③ 学習指導に関する共通実践を進めたことや学習オリエンテーションを充実させたことで、意識調査で「授業がよくわかる」と回答した児童生徒が増えた。</p> <p>③ 豊かな人間関係づくりの具体的な取組を計画的に推進することができた。</p> <p>⑥⑩ 校種間・学校間で生徒指導や学習指導に関する有意義な情報を交換・共有することができた。また、町内の全教員で本事業の趣旨を共通理解できた。</p> <p>⑥ 部活動体験や小中合同地域生徒会活動を通して、小学生に中学校進学への期待や憧れをもたせることができた。</p>
中学校	<p>③ 学習や生活についてのオリエンテーションの充実や、集団づくりエクササイズの計画的な実施等により、中学1年生で学校不適応を示す生徒がほとんど見られなかった。</p>
小学校	<p>① 指導法の改善や基礎学力の向上を目指した取組を進めることで、意識調査で「授業がよくわかる」、「学校が楽しい」と回答した6年生が大きく増えた。「わかる授業」による「居場所づくり」を進めることができた。</p> <p>② 校区コミュニティ協議会の活動が充実し、多くの児童や保護者の参加が得られた。</p>

（2）課題となっている事項

小・中共通	<p>① 意識調査で「授業に主体的に取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合が減った。</p>
中学校	<p>① 年度初めに、学校行事や生徒会活動において一人一人が活躍できる場を十分保障することができなかった。意識調査で「学校が楽しい」と回答した2・3年生の割合が減った。</p> <p>② 意識調査で「授業に主体的に取り組んでいる」、「授業がよくわかる」と回答した2・3年生の割合が低い。</p>
小学校	<p>① 意識調査で「授業に主体的に取り組んでいる」、「授業がよくわかる」の項目で、5・6年生ともに「当てはまる」と回答した児童の割合が低い。</p>

8 9月以降の重点推進事項

小・中共通	<p>○ 「わかる授業」の在り方について全教員で共通理解・共通実践を行うとともに、指導法改善の校内研修を推進する。</p> <p>○ 話し合い活動の時間の確保、問題解決的な学習過程の導入、肯定的な声かけなど、児童生徒に主体的に学び合いたいと思わせる手立てを授業の中で共通実践する。</p> <p>○ 社会教育行事や地域行事へ積極的な参加を図るための手立てを具体的に検討する。</p> <p>○ 第1回意識調査で児童生徒の自己評価が低かった項目について分析を行い、個々の具体的な対策について検討する。</p> <p>○ 各取組が不登校の未然防止につながっているかの評価を行う。</p>
中学校	<p>○ 2学期以降の学校行事や生徒会活動等で、一人一人が達成感・充実感を感じられる場を設定し、自己有用感や自己肯定感を高める取組の成果や課題を明らかにする。</p> <p>○ 校区コミュニティ活動への中学生の積極的な参加を図り、小・中・地域の三者連携を一層推進する。</p>
小学校	<p>○ 学習指導・生活指導・保健指導・基本的な生活習慣・家庭学習・行事の合同開催など、小・小連携を密にした共通実践の在り方やその推進について具体的な検討を行う。</p>

9 教育委員会の取組

（1）市町村教育委員会

〔重点推進事項〕

- ・ **予算上の措置**：予算に係る学校との打合せを密にして、共同で行う。
- ・ **運営への協力**：事業に係る取組を、町教委の主催行事として位置付ける。

- ・ **広報・啓発**：町の広報誌に本事業の紹介紙面を設けて連載する。
- ・ **教育課程への位置付け**：一連の取組を、各学校の教育課程に明記する。
- ・ **平成26年度に向けた体制づくり**：次年度以降に継続できるよう調整を図る。

〔成果と課題〕

- 学校の運営負担や事務負担を軽減することができた。
- 県教育委員会や県教育庁大隅教育事務所と一体となった指導や助言を行い、事業の充実を図ることができた。
- 広報誌での情報発信を通して町民から直接に感想や意見等を得ることができた。
- 関連の諸行事を、各小・中学校の年間行事計画に組み入れ、時数確保や欠時対応、全教職員の参加体制づくり等を行うことができた。
- 授業の充実や、「わかる授業」を通じた児童生徒の居場所づくり等について、十分な指導ができていない。
- 意識調査を好ましい方向へ変えていくための取組であるということに対して、全教職員の意識統一に向けた効果的な助言ができていない。
- 平成26年度以降の校内体制や、小・中連携に係る担当者及び事務局の在り方等について、具体案の策定に至っていない。

(2) 都道府県教育委員会

〔重点推進事項〕

・ **事業推進に当たっての指導**

研究の進捗状況の確認、効果的な研究の推進のために、調査研究委員会等に指導主事を派遣し、指導助言を行う。また、町教育委員会に対しての日常的な指導を充実させる。

・ **広報・啓発**

本事業の取組の概要を広報誌や県の Web ページでの紹介、研修会等での事例発表等により、事業成果の県下への波及を図る。

〔成果と課題〕

- 6月、8月に行われた調査研究委員会に指導主事を派遣し、取組や今後の方向について指導助言を行うことができた。
- 8月に県内の教職員を対象に行った「未来を拓く鹿児島県の教育シンポジウム」において、取組について発表する機会を設け、事業の成果を県下に波及することができた。
- 町教育委員会に対して、調査研究委員会等以外の継続的な連携や指導助言が不十分であった。
- 取組成果の県下への一層の波及のために、広報誌や Web ページ等で紹介していく必要がある。

10 関連URL（※本事業に関連するものがあれば、ご紹介ください。）

東串良町役場 <http://www.minc.ne.jp/ru-pin/>

柏原小学校 <http://blog.canpan.info/kashiwakko/index-2.html>

【問い合わせ先】

所属	鹿児島県教育庁義務教育課		電話	099-286-5298	
職名	指導主事	氏名	林 耕二	よみがな	はやし こうじ